

第9回 Kumamoto Ophthalmology Seminar(KMOS)

日時:2024年10月19日(土)18:30~20:30

会場:熊本城ホール 3階 大会議室A4

熊本市中央区桜町3-40 / TEL 096-312-3737

座長:熊本大学大学院 生命科学研究部 眼科学講座
教授 井上 俊洋 先生

講演Ⅰ 18:30~19:10

「最先端の眼瞼炎・MGD治療戦略 A to Z」

伊藤医院眼科副院長 / LIME研究会代表 有田 玲子 先生

講演Ⅱ 19:10~19:50

「緑内障と転倒や転倒予防」

名古屋大学医学部 眼科学教室 准教授 結城 賢弥 先生

講演Ⅲ 19:50~20:30

「2nd generation anti-VEGF agents (SGA)への期待と不安」

山形大学医学部 眼科学講座 教授 杵本 昌彦 先生

*当日はお弁当をご用意しております

※お問い合わせ先:千寿製薬(株) 熊谷 健二(080-1472-6844)

主催:千寿製薬株式会社

「最先端の眼瞼炎・MGD治療戦略 A to Z」

伊藤医院眼科副院長 / LIME研究会代表 有田 玲子 先生

2023年2月、日本初のマイボーム腺機能不全診療ガイドラインが策定された。

マイボーム腺機能不全 (Meibomian Gland Dysfunction, MGD) は眼瞼炎の一因であり、蒸発亢進型ドライアイの主因である。日常の一般診療において私たち眼科医が遭遇する最も頻度の高い疾患のひとつだが失明しない疾患でもあり、見過ごされることが多かった。

しかしながらその眼不快感に悩まされる患者は多く、症状も長期にわたる場合が多い。MGDはここ数年、根本治療ともなりうる治療オプションが複数出現してきたため前眼部の専門家にとってはもちろん、内眼手術後のMGDが術後不満足率の4割を占めることが明らかになるにつれ眼科サーजनにも治療すべき疾患として国際的に注目を浴びているHOTな疾患である。また昨今のコロナ禍におけるVDT使用時間の増加に伴うMGD患者の増加は明らかで、近年、特に「瞼」に対する重要性が高まっていることは言うまでもない。

本セミナーではマイボーム腺機能不全診療ガイドラインの内容や、実際のMGD患者の臨床例をまじえながらのアジスロマイシン点眼液の最適な適応症例、患者への服薬指導、温罨法やリッドハイジーンなど自宅のできるセルフケア、マイバム圧出、そして世界最先端の話題までの一連を披露し、明日からの臨床に役に立つ今が旬の内容をお届けする。

「緑内障と転倒や転倒予防」

名古屋大学医学部 眼科学教室 准教授 結城 賢弥 先生

令和3年度の65歳以上の方の転倒による不慮の事故死者数は8085名であり、交通事故死者数2150人の約4倍となっている(人口動態調査)。また介護が必要となった原因として、転倒は認知症、脳血管疾患、老衰に次ぐ第4位の原因となっている(国民生活基礎調査)。地域差もあるものの本邦では70歳以上の高齢者はだいたい年に1割から2割程度の方が転倒していると報告されている。このように転倒は高齢者にとって身近で大きな生命の危機である。眼を閉じて安全に歩行することが困難のように視機能は歩行にとって重要であることは自明である。では緑内障は転倒リスクにどのような影響を与えているだろうか？本講演では緑内障と転倒の関係や転倒予防対策を、過去の報告をreviewしつつお話しできればと考えている。

「2nd generation anti-VEGF agents (SGA)への期待と不安」

山形大学医学部 眼科学講座 教授 杵本 昌彦 先生

糖尿病黄斑浮腫(DME)は網膜バリア障害を主体とした病態であり、これによる視機能低下の克服が課題である。その治療は多岐にわたり、ステロイドそして2010年代にgame changerとして登場した抗血管内皮増殖因子阻害薬(抗VEGF薬)がある。特に抗VEGF薬はこれまでの治療を一変させた。Bevacizumabに始まりranibizumab、afliberceptの市販によりDMEは治癒可能となったように見られたが、反応不良症例もあり、新規治療が望まれている。欧米では徐放性ステロイド製剤やport delivery systemによる抗VEGF薬投与が承認されている。さらにこの2年で新規機序の抗VEGF薬や初のランビズマブ バイオシミラー製剤(ランビズマブBS)が承認された。今回新たに高濃度製剤が承認され、まさに2nd generation anti-VEGF agents(SGA)百花繚乱となっている。いずれの薬剤も新たなgame changerと期待されている。各々特徴があり、また独特の合併症もあるため、手放して喜ぶことは早計であり、不安も確かにある。さらに薬剤選択の幅が広がったため、治療選択に迷う場面も多々ある。

本講演ではDMEの病態、そして既存治療とSGAを中心とする新規治療のこれからについてお話しする。